

日本一幸せな社員

働いて受け取るお金がすべてでしょうか。生活の大切な要因の一つであることに代わりありませんが、幸せと別ではないでしょうか。働く幸せは社員も自らで創り上げるものでしょう。

自分たちの会社であれば、幸せは与えられて掴むものではないと思います。会社の実績は全て社員・従業員が造りだすものです。

社長は先頭に立ち、見本と方向性を示すだけです。この単純な真理を、社長は資金を調達しますのです。自分の能力、実績と過信する畏に陥り安いです。

いつでも人として大切な、謙虚さ、優しさ、感謝の心を失わないことでしょうか。ここには儲ける意識など皆無です。

奇妙に言えるのですが、順調に思っている時に、気付かない大きな落とし穴が待ち構えているのです。結果から言えばこれを避けれるものではありません。本質を素直に受け入れ、復活を考え目標を高く掲げ、存在感を示すことでしょうか。自分だけでは、幸せに出来ないのです。共に歩む仲間が必要です。

人の苦しみの全てに原因があり、またこの世のものは全て移り変わるといふ現実には真理があります。人は自分を中心に置き、自

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2014年10月6日 (月) NO 369
地域から明るい未来を作ろう

分の都合で物事を考えます。これを「自我」と言う。自我に「執着」すれば苦しみ、自縛に陥り、なかなか抜けだせないのです。

今日より明日が良くなる

時代はすでに二十年前に終わりました。その後抛り所となる「国家」は、震災、津波、原子炉溶融、水害、火山爆発などの災害を見るにつけ、納税義務の限界「信頼」を大きく傷つけています。大手の社員に限らず、一人一人が正しい観察眼と判断力を持つことが、今日ほど求められる時代ではないでしょうか。

大きく、高く、深く考え

実行する社員が日本一の幸せな会社を創る第一歩でしょう。このためには、現実を正しく受け入れ変わらなければなりません。自分自身を変えて行くしかないのです。



雇用を生み利益をだし、税を納める

劣化とは消費者・使用者の要求水準が向上し、従来のものでは対応しきれなくなることを指します。

社会的劣化は、消費者側の心理的变化によるもので、必ずしも物理的な品質低下を伴っていない。劣化は主に文化を言うものにふさわしいものです。衰退は、会社に良く発生します。

衰退の段階に入ると、売り上げは低下し、利益も激減する。新規投資がほぼ不要である。

劣化と衰退

を行うか、どちらかの戦略をとることになります。しかし、衰退に限らず計画の通りに世の中、いかなるのが常です。自分自身でさえ変わるので、すから、明らかなのは混沌で

最前列に並びます。物事の読みや「橋」のどこを渡っているか、またどの程度見えるかは、自分の背丈より上にあるものは、誰も手が届かないのと同じです。

るため、一部のリーダー企業はキャッシュを生み続けることができるが、それ以外の企業は、撤退するか、イノベーションにより新たな価値の創造

確実なものはない、未来は未知だと言ってもいい。即ち不連続です。従い誰にでも未来は平等です。私達は常に限られた情報で判断、意思決定をしている事を知らなければならぬ。結果、謙虚と素直が